

## 約4千枚が1枚のディスクに

ニッポン写真遺産は家庭のアルバムやプリント写真をお預かりしてスキャンし、画像データと一緒にお返しするサービスです。約4千枚のL判写真が、パソコンで閲覧できるDVD-Rディスク1枚に収まります。部屋の片付けやお子さんへの

引き継ぎに便利です。自分史作りの準備にも最適。スマホで思い出を持ち運ぶこともできます。詳しくは下記へ。

■ウェブサイト  
https://shashin-isan.asahi.com/  
■コールセンター  
東京 03・6868・8255 大阪 06・7878・6588

## アドバイザーが訪問 写真整理をお手伝い

ニッポン写真遺産は21日、「写真整理お手伝いプラン」を始めました。お客様からの「デジタル化する前に、写真の取舍選択や整理作業を手伝ってほしい」「デジタル化した画像をもとに、写真集を作りたい」といった声におこたえするオプションプランです。

このプランで朝日新聞社は、「写真整理アドバイザー」の資格試験を運営する一般社団法人パソコブと提携。申し込みいただいたお客様のもとに、アドバイザー有資格者が訪問し、デジタル化する前の写真の整理作業などをお手伝いします。ご要望があれば、デジタル化

した画像を元にした写真集（フォトブック）作りも承ります。このプランは、東京・神奈川県・埼玉・千葉の1都3県でスタート。価格（税別）は、基本料金が2万円、写真整理アドバイザー半日訪問（2時間）が2万円、写真集編集費（40ページまで）6万円など＝表参照。

「重たいアルバムを発送するための箱詰めを手伝ってほしい」「スライドフィルムの枠の部分に書かれた日付やメモを一緒に整理してほしい」といったご要望も承ります。

詳しくは、ニッポン写真遺産コールセンターへお問い合わせ下さい。



写真集のイメージ(中のページ)

■お手伝いプラン利用時の料金例 アドバイザー訪問3回(東京23区内)、写真集1部制作(40ページまで)

基本料金	20,000円
半日訪問×3回分	60,000円
交通費×3回分	3,000円
写真集編集費	60,000円
印刷実費	20,000円
合計	163,000円

税別。別途、デジタル化の料金がかかります

勢を強化したことで、料金はそのまま2カ月早く納品します。料金の目安（税別）は、貼り付け式アルバム（60ページまで）で標準コース4,000円、お急ぎコース5,000円。（ほかに基本料金1回1,000円と送料がかかります）

標準コースは「テレビ用DVD」「色あせ補正」の各オプションが無料付帯されるメリットもあります。

## 標準コースの納期短縮

ニッポン写真遺産は、納入までの期間が3週間の「お急ぎコース」と、6カ月の「標準コース」の2コースを用意していますが、21日から標準コースの期間を4カ月に短縮しました。

本格オープンから4カ月たち、受け入れ態

# 炭鉱の時代を生きた祖母

ニッポン  
写真遺産

思い出まるごと  
スキャン

朝日新聞社が始めたアルバム・写真デジタル化サービス「ニッポン写真遺産～思い出まるごとスキャン～」のこの春の本格スタート以来、受注枚数は50万枚を超えました。今回も、寄せられた写真の中から印象的なものをご紹介します。

すましたポーズをとる頭巾姿の3人の女性。座っているのは石炭の上だ。この写真は、国内最大の無煙炭の産出量を誇った大嶺炭田（山口県美祿市）の山陽無煙炭業所で、1950年ごろに撮影された。

同市の高洲建雄さん(61)は、今年4月に初孫が生まれたのを機に、子どもたちに写真を引き継ぎたいと、貼り付け式アルバム7冊、ポケット式アルバム71冊を「ニッポン写真遺産」でデジタル化した。その中に、亡き祖母ケイさんの写真もあった。

1908(明治41)年生まれて同県下関市出身のケイさんは、夫の戦死を受け「家族を養わねば」と、戦後すぐから山陽無煙炭業所で働き始めた。写真の場面は、カメラを買ったばかりの同僚が昼休みに「撮っちゃろうか」と声をかけてきて写されたものだという。

ケイさんはその後、炭鉱を運営する宇部興産の系列病院などに異動し、55歳の定年まで勤め上げた。建雄さんは、炭鉱がにぎやかだった

写真中央がケイさん。産出した石炭を洗う「洗炭場」で働いていたという1960年ごろ撮影。高洲さん提供



## 家族養うため 勤め上げた思い出話

た頃の社宅で幼少期を過ごした。しかし、石炭から石油へのエネルギー革命で、街は徐々に活気を失う。小学1年で3学級あった学年が、6年では2学級に。「高学年になると、転校する子が朝礼で何人か並んであいさつする儀式が毎週のようにあった」

70年に山陽無煙炭業所は閉山。ケイさんは85年に亡くなった。

今的美祿市では、炭鉱で働いた経験のある人は少なくなった。建雄さんは「祖母からはよく炭鉱の仕事の話聞いた。その時は何とも思わなかったが、今となっては貴重な話ばかり。とてもありがたく思っている」

(種口慶)



社宅の跡地に立つ高洲建雄さん。今は太陽光発電施設になっている＝2018年7月、山口県美祿市

炭鉱近くの社宅前に立つ、小学1年の高洲建雄さん(1963年撮影、高洲さん提供)